

岡山県感染症週報 2014 年 第 29 週 (7 月 14 日～7 月 20 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2014 年 第 29 週 (7/14～7/20) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 28 週 2 類感染症 結核 6 名 (20 代 女 1 名、30 代 男 1 名・女 1 名、40 代 男 1 名、60 代 男 1 名、80 代 男 1 名)

第 29 週 2 類感染症 結核 5 名 (乳児 女 1 名、20 代 女 1 名、30 代 女 1 名、50 代 女 1 名、70 代 男 1 名)

3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 3 名 (O157: 幼児 女 2 名、20 代 女 1 名)

4 類感染症 レジオネラ症 2 名 (60 代 男 1 名、70 代 男 1 名)

■定点把握感染症発生状況

○ヘルパンギーナは、県全体で 134 名 (定点あたり 1.22 → 2.48 人) の報告があり、前週に比べ倍増しました。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 44 名 (定点あたり 1.00 → 0.81 人) の報告があり、過去 10 年間の同時期と比較して多い状態で推移しています。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 29 週に 3 名の報告があり、2014 年累計報告数は 38 名となりました。岡山県では、「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。例年、7 月、8 月は 1 年のうちで最も発生が多くなり、特に抵抗力の弱い子どもや高齢者などでは、重症化しやすいので注意が必要です。肉の生食は避け、ハンバーグなどは中心部まで加熱しましょう。生肉に触れた手指は石けんで十分に洗い、また、生肉の調理に使用した調理器具は、熱湯などで消毒してから他の調理に使用しましょう。ヒトからヒトへの二次感染については、手洗いの徹底などにより、感染を予防することができます。特に、保育施設においては、集団発生が例年多いため、オムツの交換時の手洗いや園児に対する手洗い指導の徹底に努めましょう。また、これからの季節は、簡易プールなどの衛生管理にも注意が必要です。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!**』をご覧ください。
2. **ヘルパンギーナ**は、県全体で 134 名 (定点あたり 1.22 → 2.48 人) の報告があり、前週に比べ倍増しました。地域別では、倉敷市 (4.27 人)、真庭地域 (3.00 人)、岡山市 (2.64 人) の順で報告数が多くなっています。詳しくは『**今週の注目感染症**』をご覧ください。
3. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で 44 名 (定点あたり 1.00 → 0.81 人) の報告があり、過去 10 年間の同時期と比較して多い状態で推移しています。地域別では、倉敷市 (1.45 人)、岡山市 (0.93 人)、美作地域 (0.83 人) の順で報告数が多くなっています。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、発熱、のどの痛み、嘔吐を主症状とする細菌性の感染症です。感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれています。そのため、家庭や学校、保育施設などの小児の集団生活施設内での感染も多いとされています。予防としては、患者との濃厚接触を避け、うがい・手洗いの実施やマスクの着用などが有効です。

**夏休み期間中に海外へ渡航する方向けの感染症情報が、
厚生労働省のホームページからご覧いただけます。**

海外には、日本国内に通常存在しない感染症があります。安全で快適な海外旅行にするためには、出発前にあらかじめ渡航先の衛生状況や感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。渡航先では感染に気をつけ、帰国時に体調不調があれば空港の検疫所に相談しましょう。また、帰国後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は渡航先も伝えましょう。

☆ [夏休み期間中における海外での感染症予防について](#) (厚生労働省ホームページ)

☆ [夏休みに海外へ渡航される皆さまへ!](#) (厚生労働省検疫所ホームページ)

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)					

【記号の説明】 前週からの推移: : 2 倍以上の減少 : 1.1~2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減
 : 1.1~2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い
 今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

【医療機関の方へのお知らせ】

感染症法施行令の一部が改正されました。(平成 26 年 7 月 16 日)

中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る)が、指定感染症に定められます。

この改正は、平成 26 年 7 月 26 日から施行されます。

[○感染症発生動向調査事業実施要綱\(平成 26 年 7 月 26 日~\)](#)

[○感染症発生動向調査事業実施要綱 新旧対照表](#)

[○届出基準\(平成 26 年 7 月 26 日~\)](#)

[○届出様式\(全数把握感染症\)\(平成 26 年 7 月 26 日~\)](#)

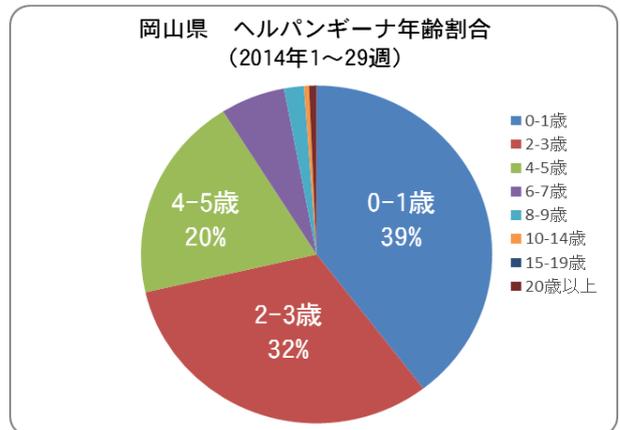
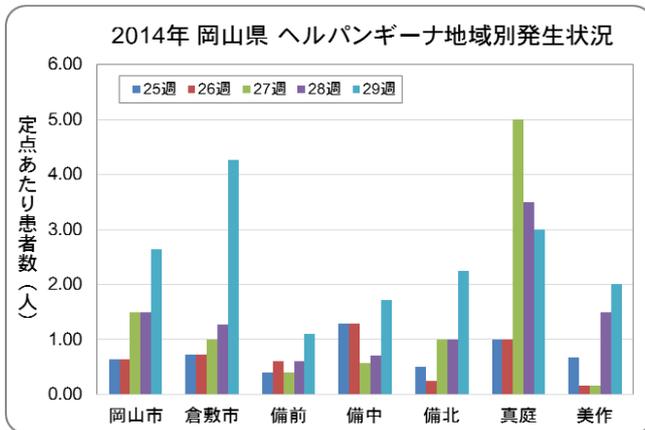
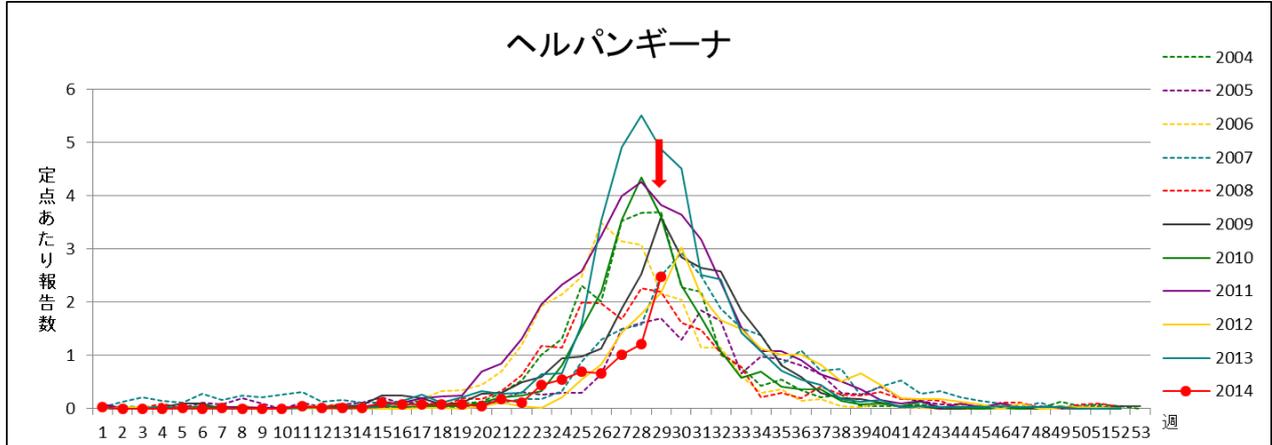
[○届出基準及び届出様式 新旧対照表](#)

今週の注目感染症

ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、夏に発生する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表的なものです。A群コクサッキーウイルスなどが原因となります。毎年、5月頃より患者が増加し始め、7月頃にピークとなる傾向があります。

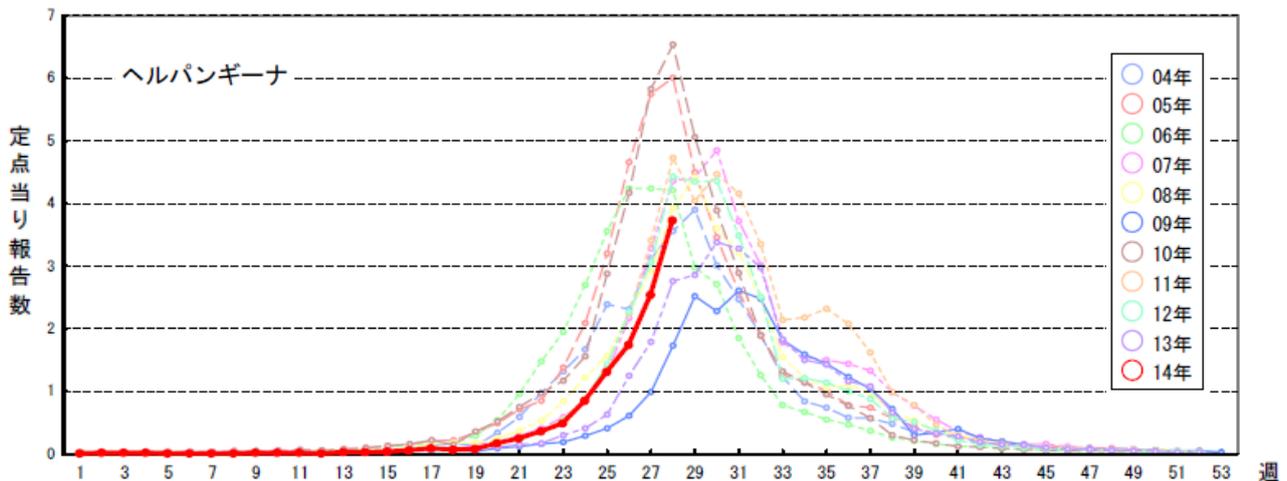
【岡山県の発生状況】



ヘルパンギーナは、県全体で134名（定数あたり1.22 → 2.48人）の報告があり、前週に比べ倍増しました。過去10年間の同時期に比べて患者数は少ないですが、増加傾向にあります。地域別では、倉敷市（4.27人）、真庭地域（3.00人）、岡山市（2.64人）の順で報告数が多くなっています。第29週までの年齢別累計では、0-1歳39%、2-3歳32%、4-5歳20%の順で多く報告されています。

例年、7月頃が流行のピークとなりますので、今後の発生状況に注意するとともに、患者との接触を避け、外から帰った後のうがい、食事の前やトイレの後などに手洗いを行うなど、感染予防に努めましょう。

【全国の発生状況】



全国の第 28 週発生状況は、定点あたり 3.73 人で 9 週連続の増加となりました。都道府県別では、鳥取県（8.00 人）、東京都（7.13 人）、大阪府（7.04 人）の順で多くなっており、いずれの地域も警報基準値の 6 人を超える流行となっています。

[国立感染症研究所 IDWR 速報データ 2014 年第 28 週](#)

【主な感染経路】

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染します（飛沫感染）。また、便の中に排出されたウイルスが、手などを介し口に入って感染します（経口感染）。

【症 状】

症状は、突然の発熱につづいてのどが痛くなり、口腔内直径 1～5mm ほどの赤い小水疱が、多数出現するのが特徴です。小水疱は、やがて破れて痛みを伴います。通常、2～4 日で軽快し予後は良好な疾患ですが、発熱時に熱性けいれんを伴うことや、口腔内の痛みのため、食事や水分を十分にとれず脱水症状を呈することがあります。まれに、無菌性髄膜炎や急性心筋炎などを合併することもあるため、お子さんの状態に注意し、頭痛や嘔吐がみられる際には、早めに医療機関を受診してください。

【予 防】

患者との密接な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を行い、オムツや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋を使用するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4 週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、保育園、幼稚園、学校などの集団生活では注意が必要です。

[国立感染症研究所ホームページ ヘルパンギーナとは](#)

保健所別報告患者数 2014年 29週 (2014/07/14～2014/07/20)

2014年7月23日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	3	0.04	3	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	13	0.24	5	0.36	1	0.09	2	0.20	-	-	1	0.25	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	0.81	13	0.93	16	1.45	4	0.40	3	0.43	2	0.50	1	0.50	5	0.83
感染性胃腸炎	320	5.93	91	6.50	63	5.73	65	6.50	12	1.71	30	7.50	6	3.00	53	8.83
水痘	35	0.65	12	0.86	3	0.27	7	0.70	5	0.71	1	0.25	1	0.50	6	1.00
手足口病	18	0.33	8	0.57	4	0.36	3	0.30	-	-	2	0.50	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	20	0.37	15	1.07	1	0.09	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	134	2.48	37	2.64	47	4.27	11	1.10	12	1.71	9	2.25	6	3.00	12	2.00
流行性耳下腺炎	17	0.31	10	0.71	2	0.18	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	5	1.00	1	0.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 29週 (2014/07/14~2014/07/20)

2014年7月23日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	3	0.04	3	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	13	0.24	5	0.36	1	0.09	2	0.20	-	-	1	0.25	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	0.81	13	0.93	16	1.45	4	0.40	3	0.43	2	0.50	1	0.50	5	0.83
感染性胃腸炎	320	5.93	91	6.50	63	5.73	65	6.50	12	1.71	30	7.50	6	3.00	53	8.83
水痘	35	0.65	12	0.86	3	0.27	7	0.70	5	0.71	1	0.25	1	0.50	6	1.00
手足口病	18	0.33	8	0.57	4	0.36	3	0.30	-	-	2	0.50	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	134	2.48	37	2.64	47	4.27	11	1.10	12	1.71	9	2.25	6	3.00	12	2.00
流行性耳下腺炎	17	0.31	10	0.71	2	0.18	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	5	1.00	1	0.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第29週 2014/07/14~2014/07/20)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~	
インフルエンザ	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-

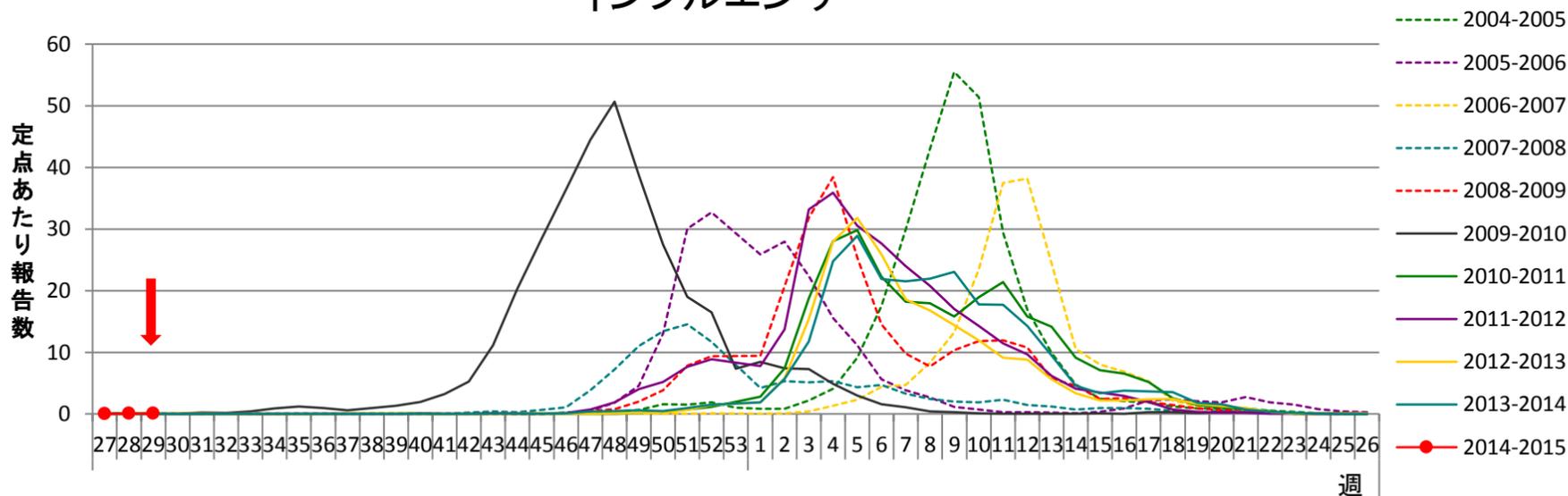
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	13	-	1	3	3	2	-	1	2	-	-	1	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	1	-	1	3	4	5	11	8	2	4	1	3	-	1
感染性胃腸炎	320	7	29	53	32	29	26	24	18	6	13	7	27	8	41
水痘	35	-	5	4	4	5	3	2	1	3	2	3	2	1	-
手足口病	18	-	2	8	3	2	1	1	1	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	20	1	9	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	134	-	14	32	25	19	23	11	4	4	1	-	-	-	1
流行性耳下腺炎	17	-	-	-	-	2	3	2	6	1	-	1	2	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	-	2	-	

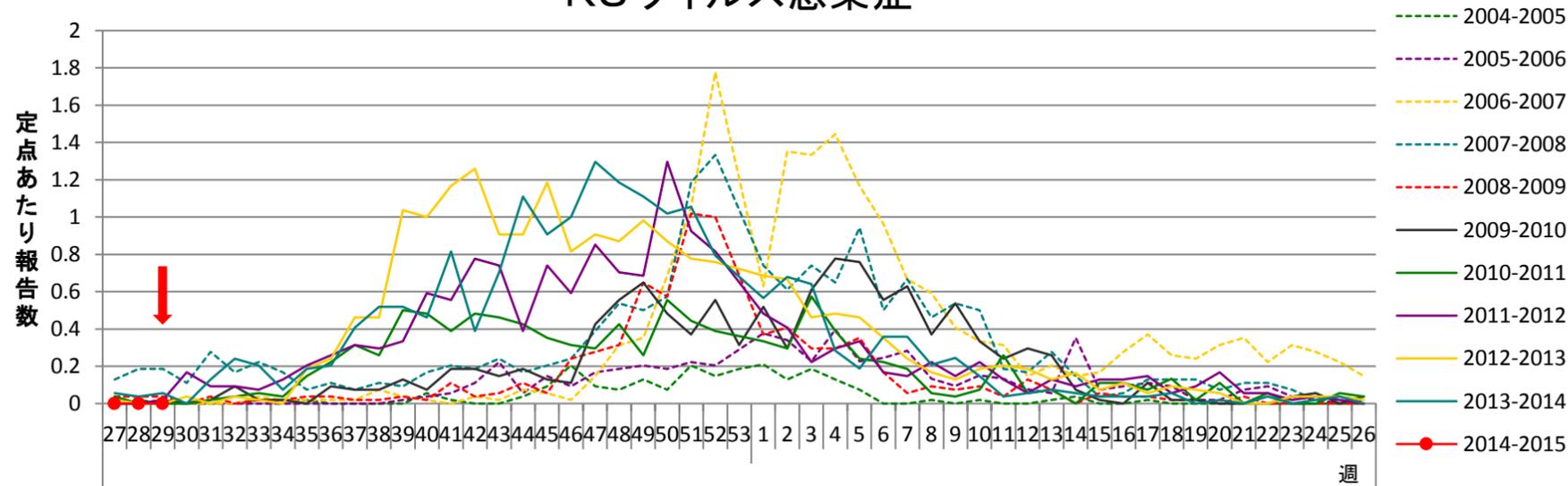
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

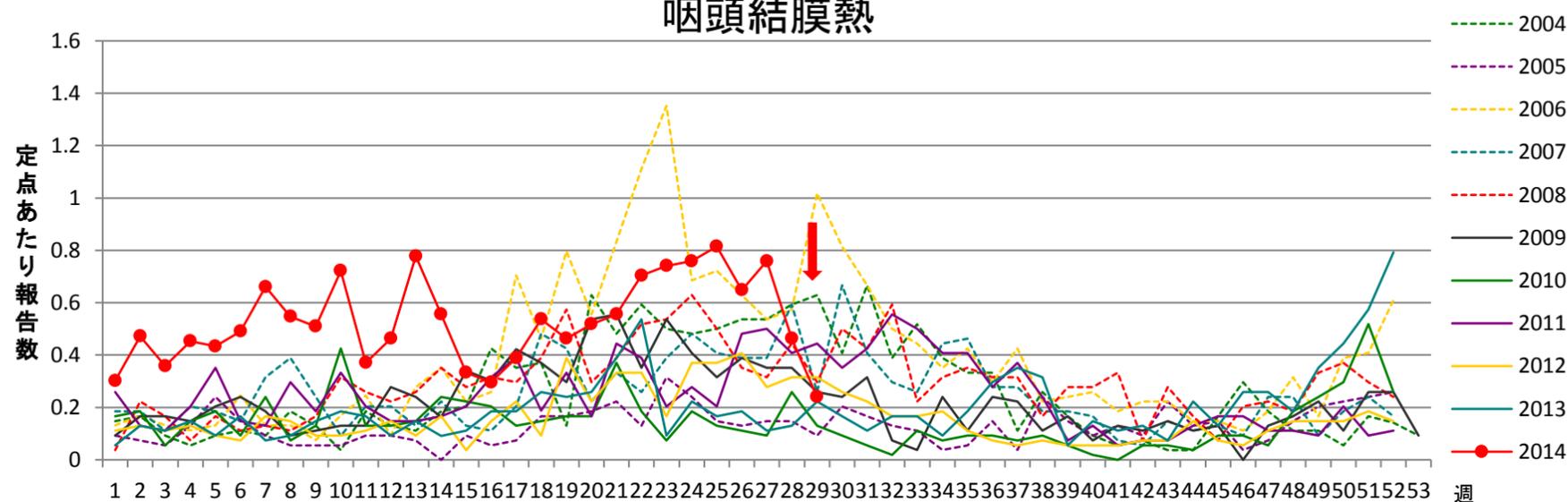
インフルエンザ



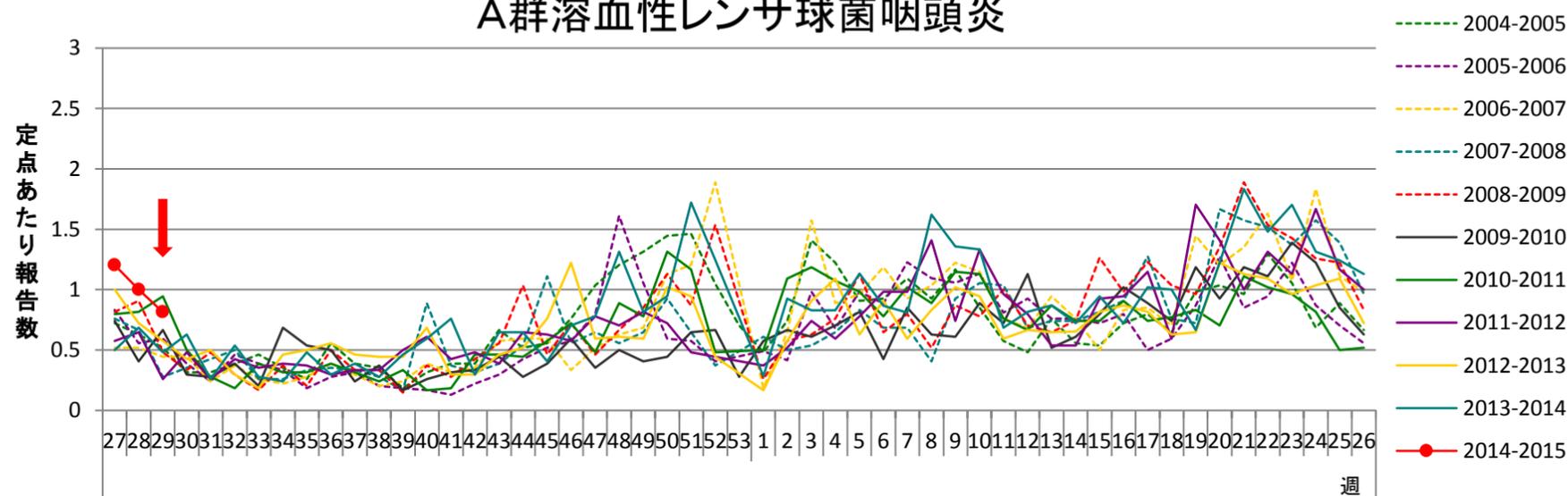
RSウイルス感染症



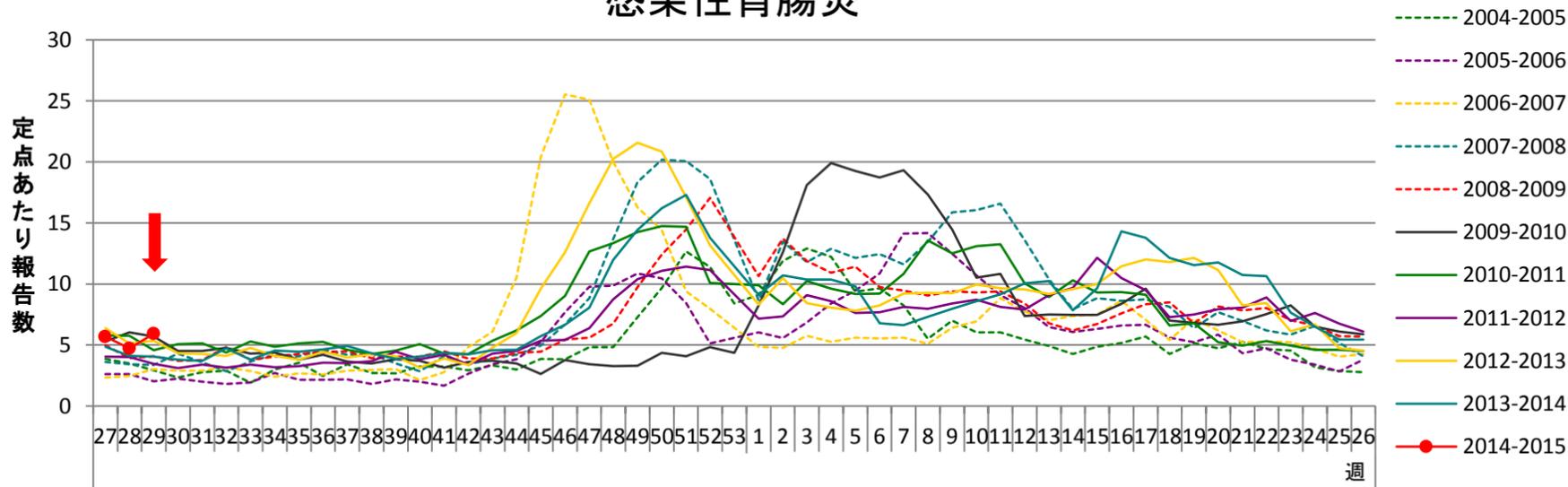
咽頭結膜熱



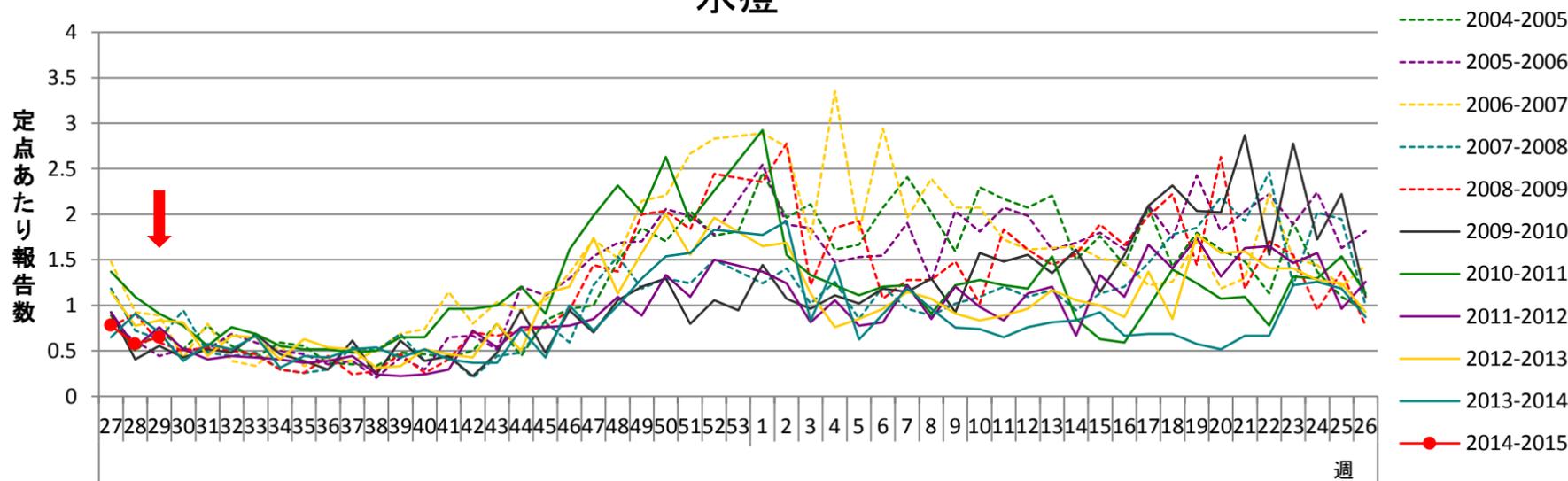
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



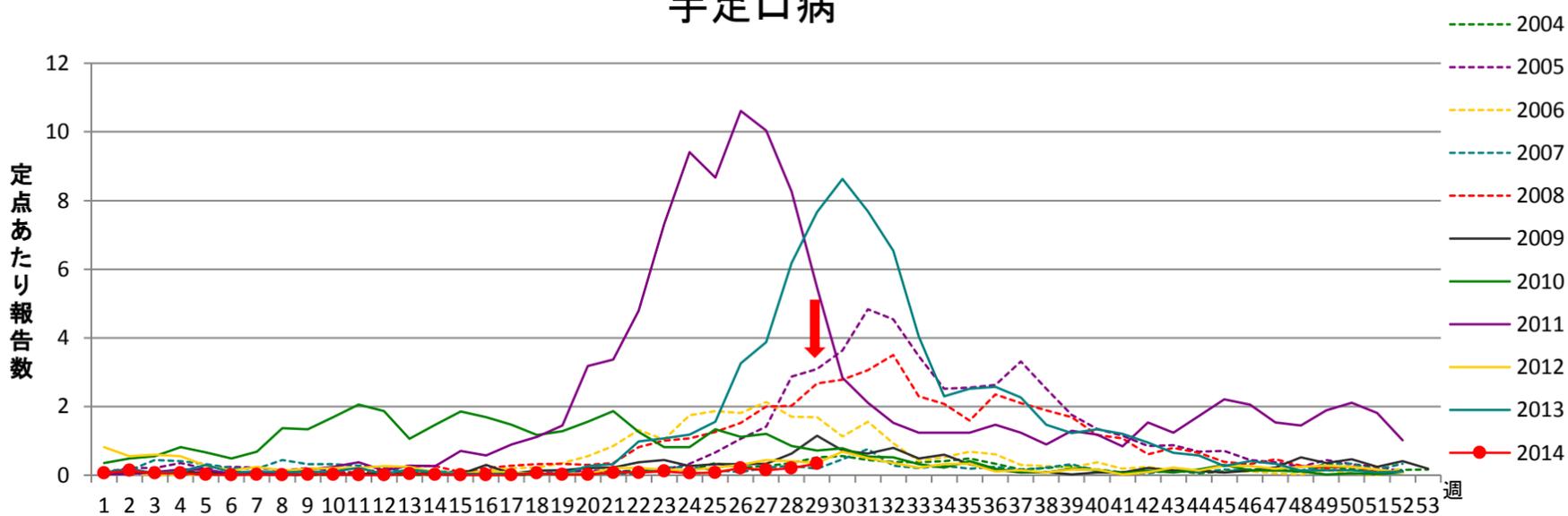
感染性胃腸炎



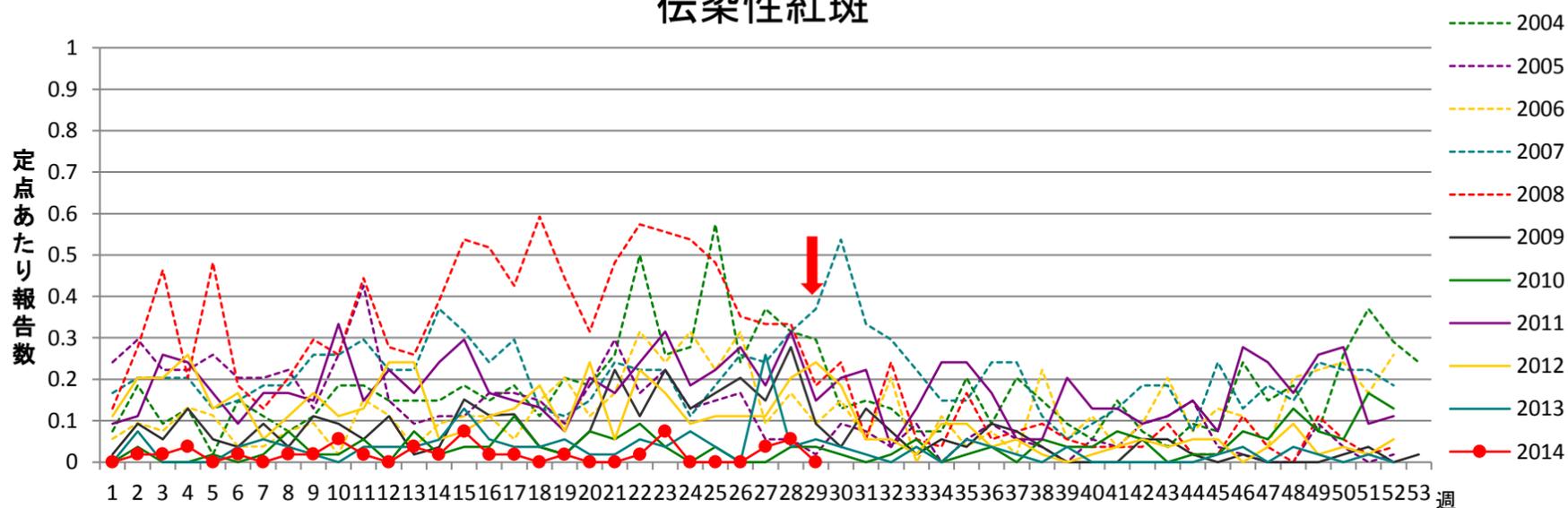
水痘



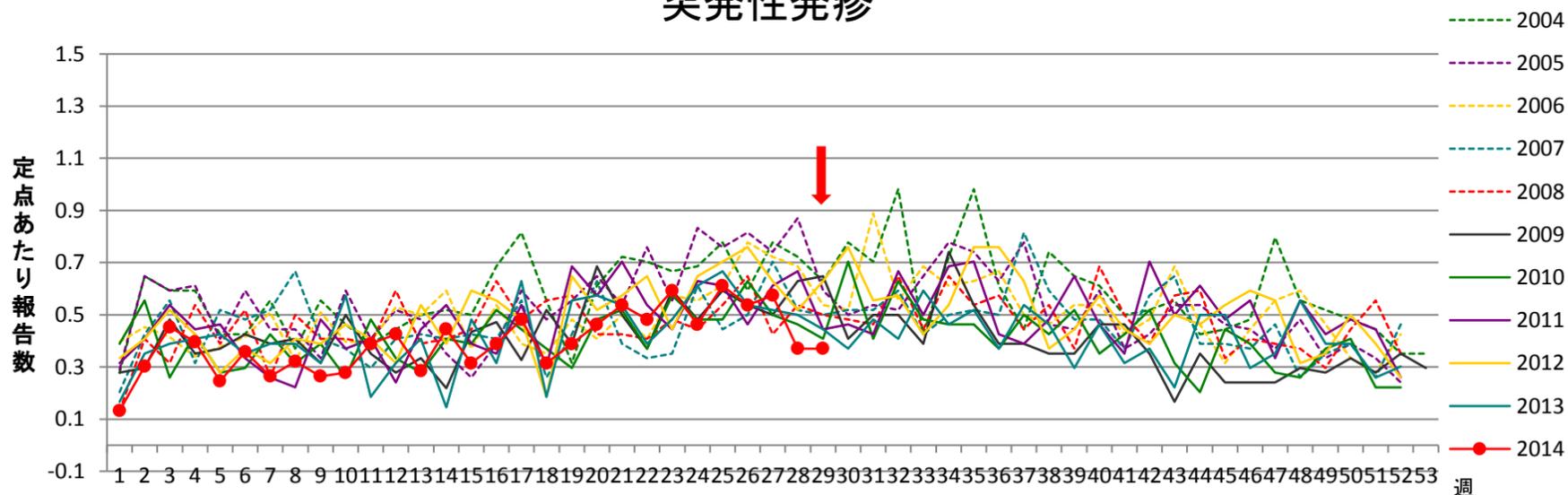
手足口病



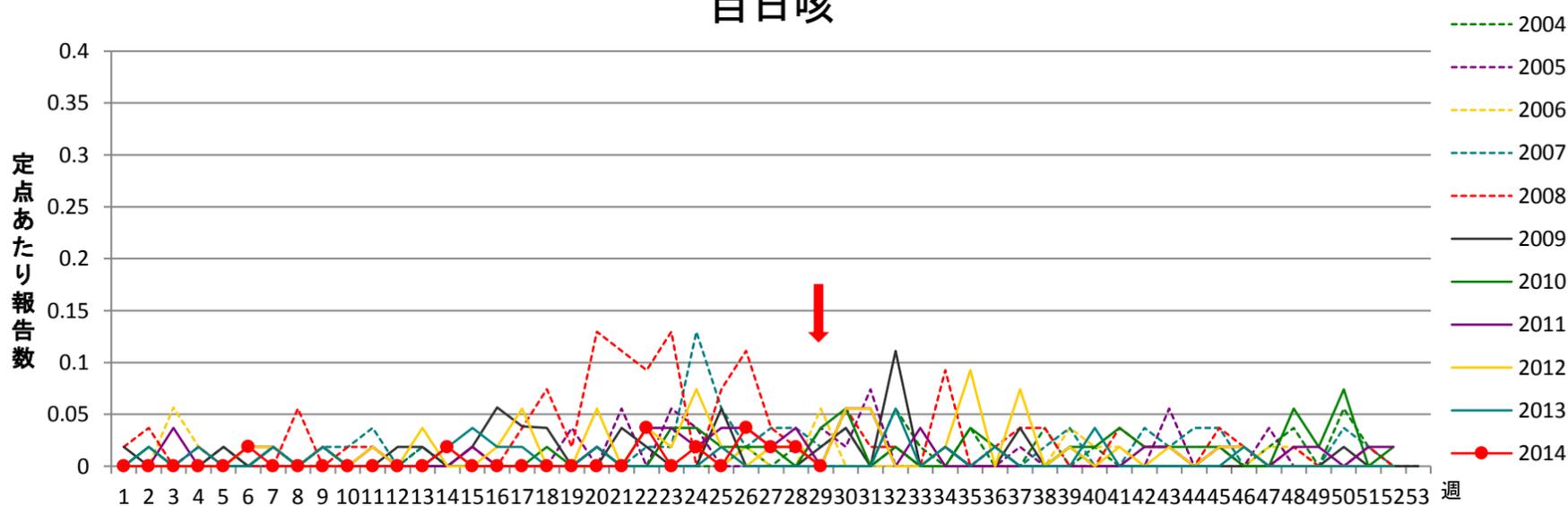
伝染性紅斑



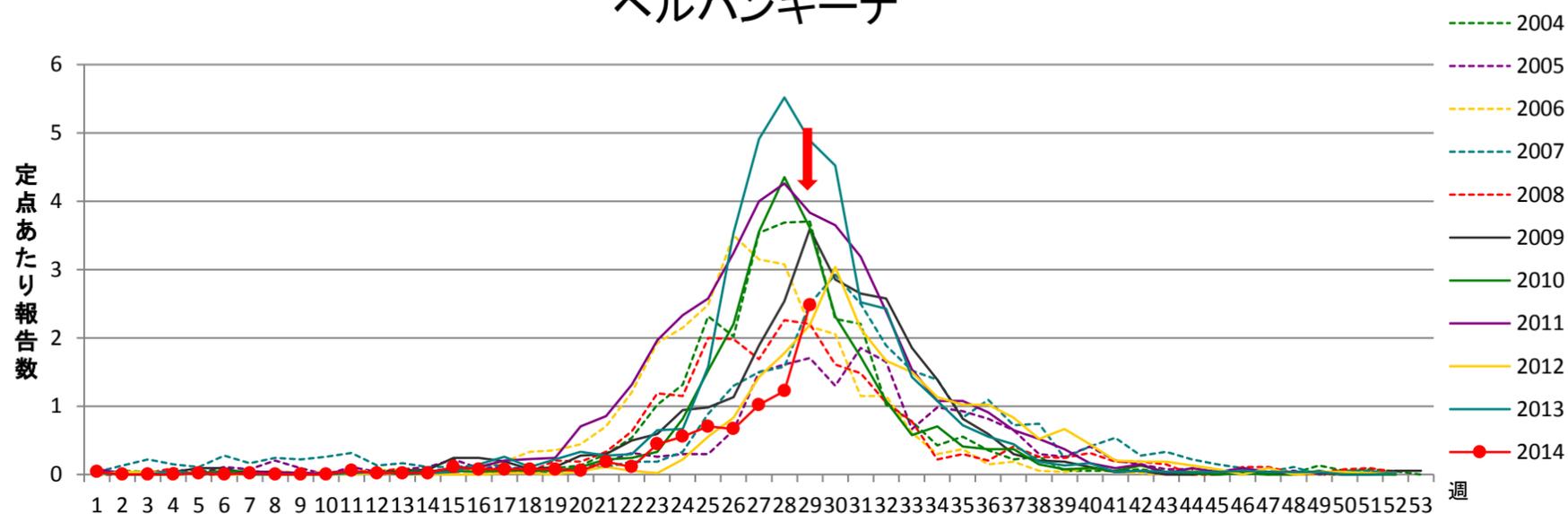
突発性発疹



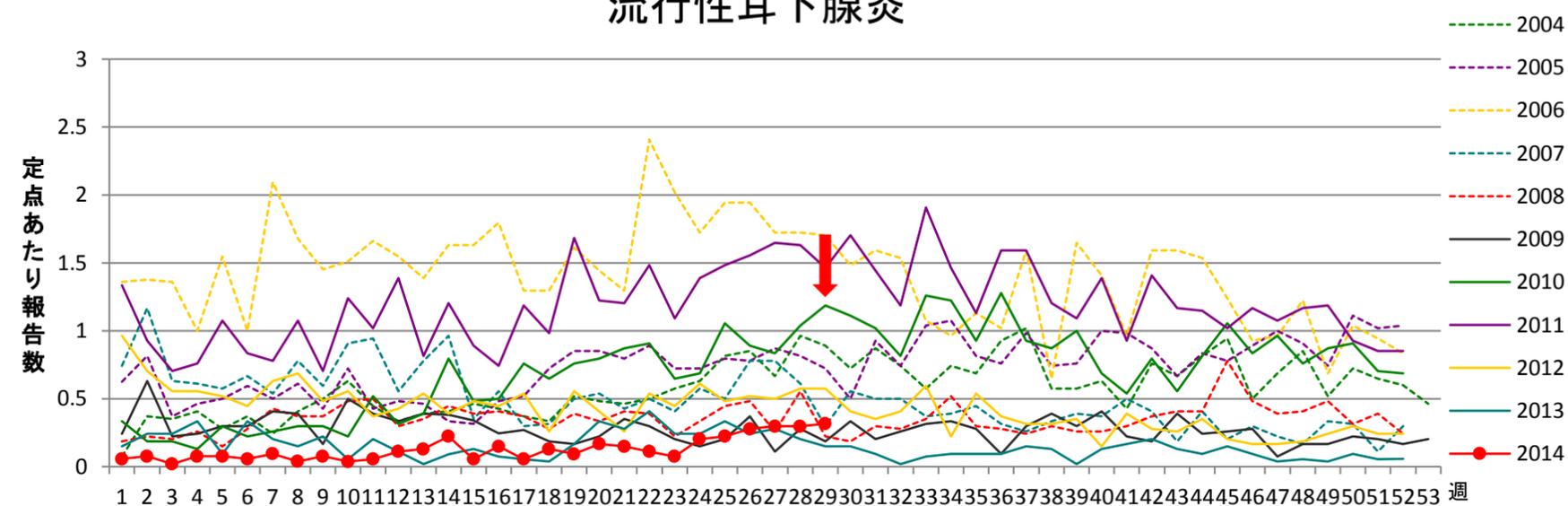
百日咳



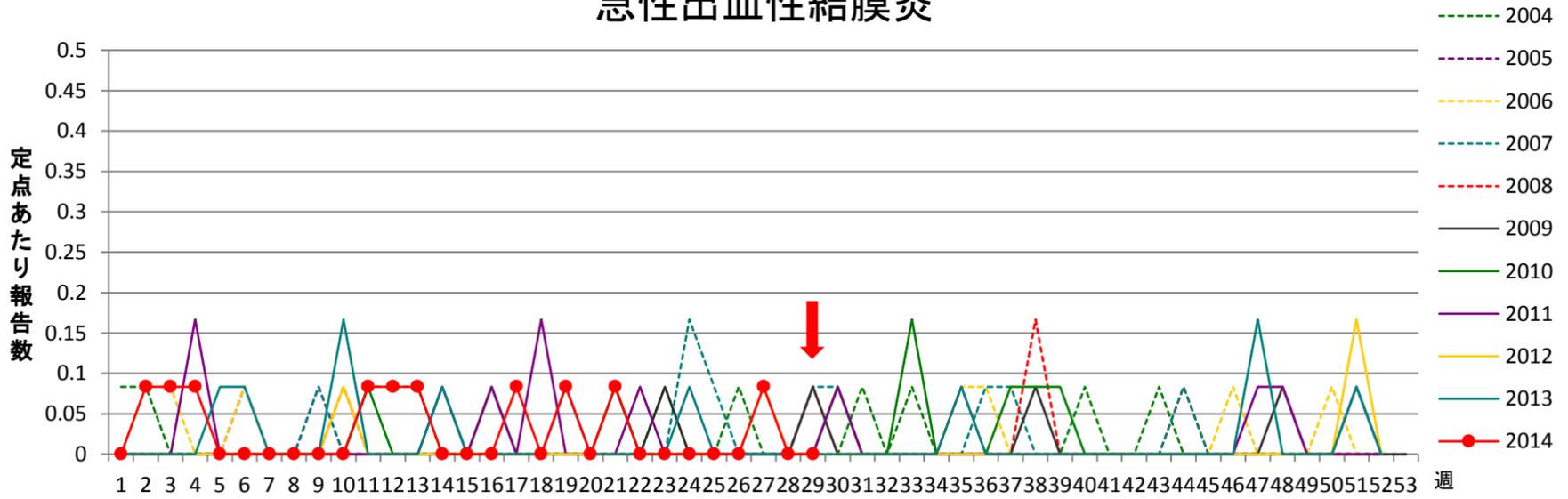
ヘルパンギーナ



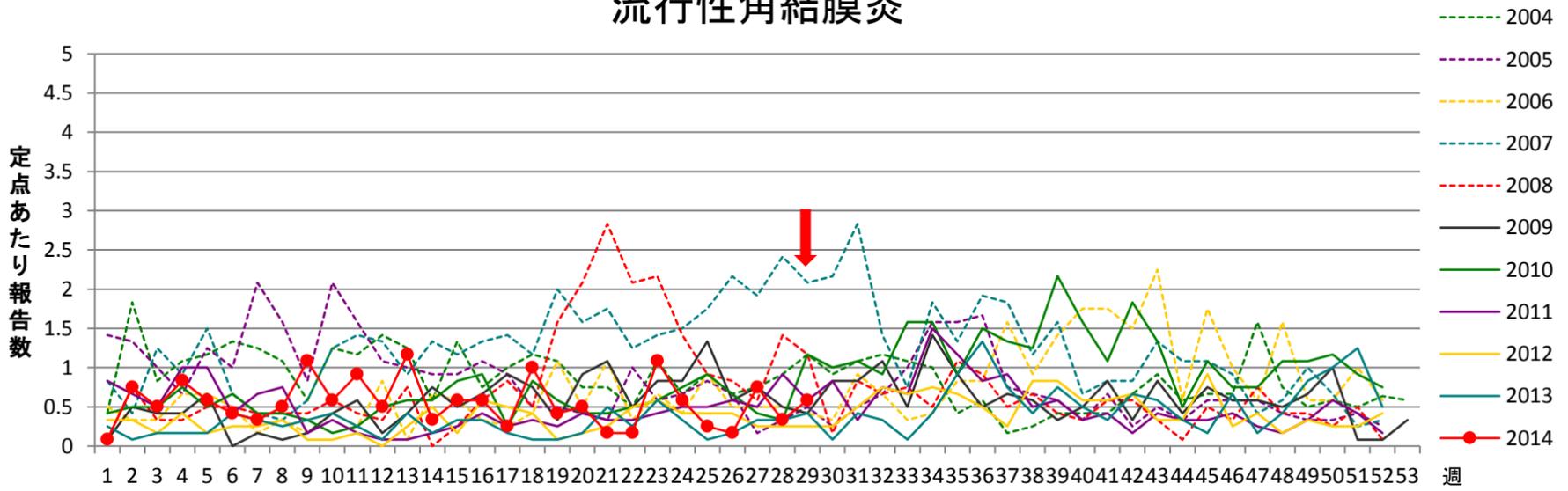
流行性耳下腺炎



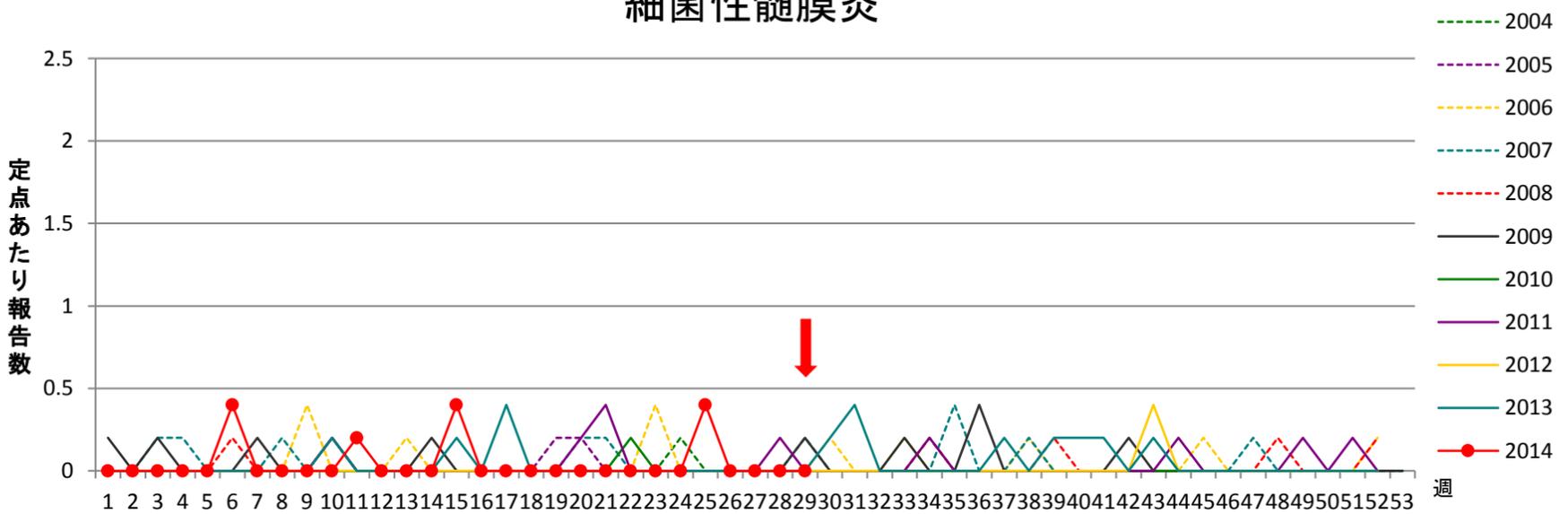
急性出血性結膜炎



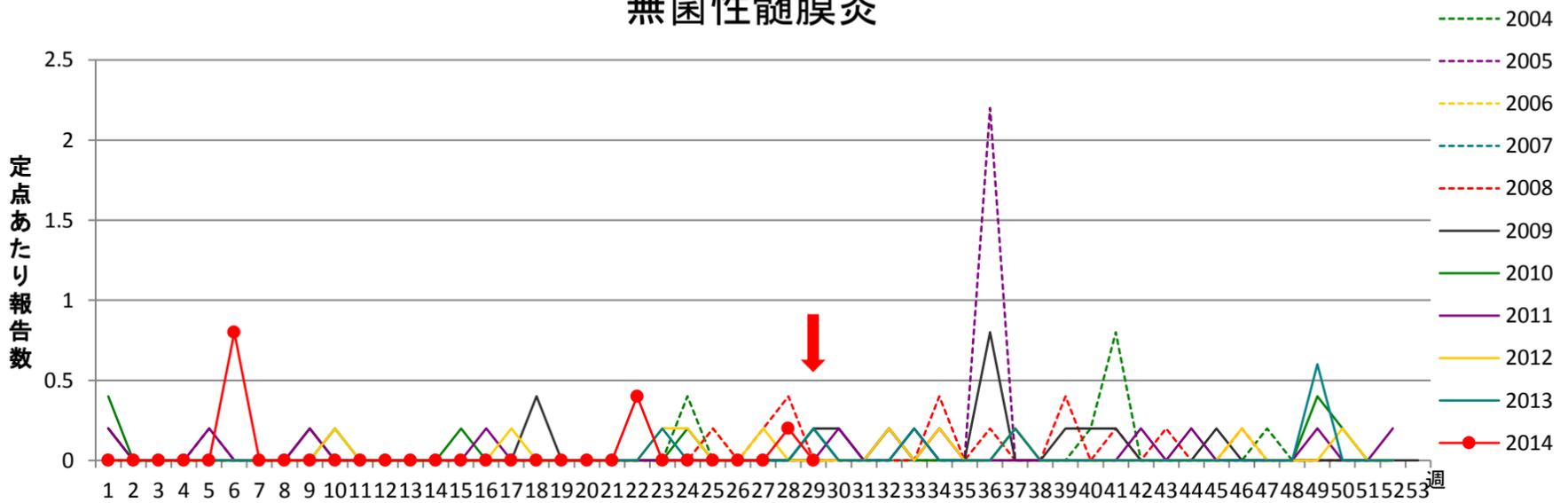
流行性角結膜炎



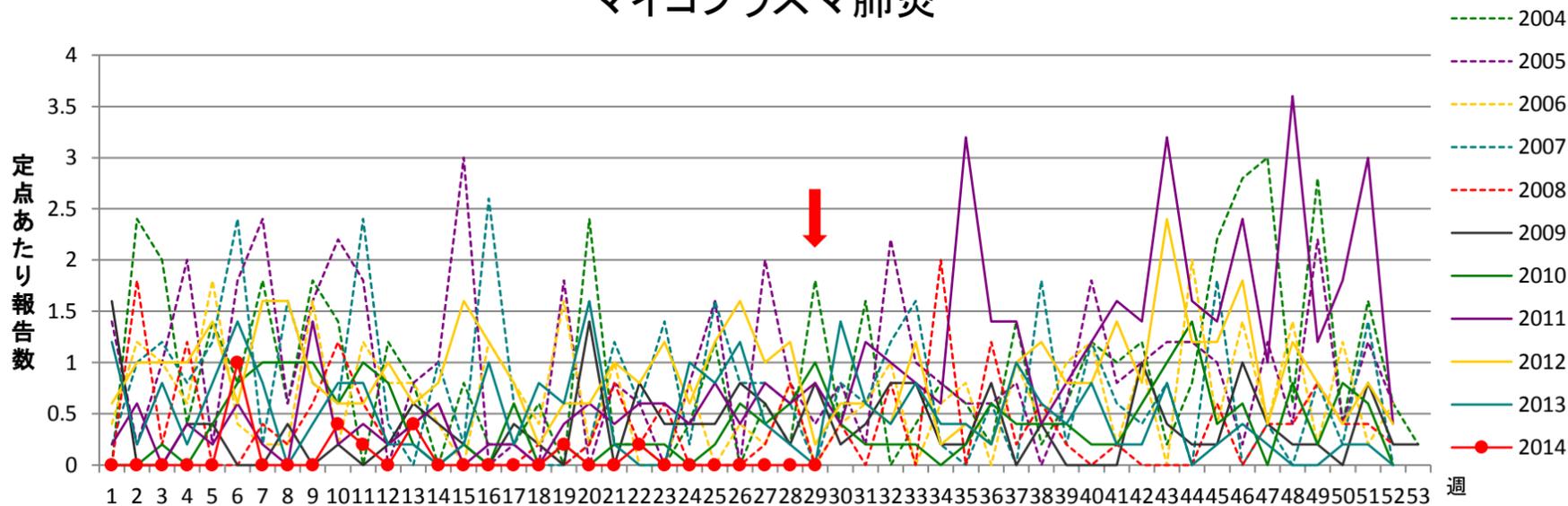
細菌性髄膜炎



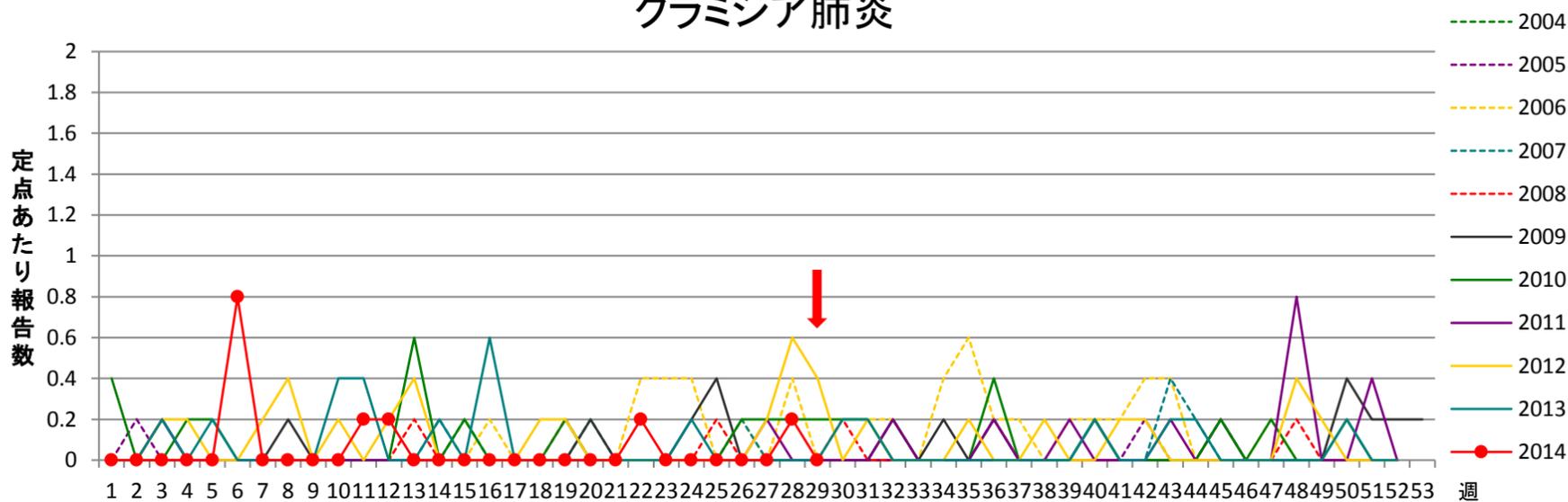
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

